県立広島大学 Prefectural University of Hiroshima

地域連携センター報

Vol. 5

COMMUNITY LIAISON CENTER

平成19年10月11日発行

県立広島大学地域連携センター
〒734-8558 広島県広島市南区宇品東一丁目1番71号 電話082-251-9534 E-mail:renkei@pu-hiroshima.ac.jp

三原シティカレッジ盛況に開催中

三原キャンパスのシティカレッジは，一般の方を対象とした市民講座と看護師，保健師，理学療法士，作業療法士，言語聴覚士などの専門職を対象とした専門職講座に分けられます。平成18年度の受講者数（延べ人数）は，市民講座758名，専門職講座902名と大変盛況でした。今年度の市民講座では９講座，専門職講座では５講座を開催予定ですが，昨年度を上回る勢いで応募があります。

三原キャンパスは保健福祉学部と大学院・保健福祉学専攻で構成されていますが，三原シティカレッジでは，「英語学習」に関する講座や庄原・広島キャンパスと連携して「環境問題」や「児童文学」に関する講座も開催しています。７月に開催した「家庭における高齢者の転倒予防」には65名の参加があり，身近な転倒に対する予防法について真剣なまなざしで講義を受けていました。講師は理論だけでなく，実際の動きも取り入れ転倒予防法について講義を行い好評でした。

今後も講座終了後のアンケートや受講者の声を取り入れながら，より良い内容を提供できるよう教職員一同で運営していきます。

「家庭における高齢者の転倒予防」講座の１コマ

近藤敏教授の講座は，グループワークや実技を取り入れたものが多く人気があります。「認知症を防ぐ，遅らせるための生活づくり」講座では，都合がつかず参加できなかった方が後日資料だけでも頂きたいと訪ねてこられるほど好評でした。機会があったら一度参加してみてください。

「英語学習への誘い」講座の１コマ

受講生が対面して立ち英会話に挑戦しました。4分経過するとパートナーがかわり，多くの人と練習することができました。質問と幾つかの答えがあらかじめ用意されていたのですが，自然と話が広がり，日常英会話が体験できました。とても楽しい一時でした。（参加者W）

３キャンパスのシティカレッジや公開講座の詳細をホームページに掲載していますのでご覧下さい
http://www.pu-hiroshima.ac.jp/renkei/index.html

庄原キャンパス

SHOBARA CAMPUS

公開講座

平成19年度県立広島大学市民公開講座（前期）
地球のなかの庄原，庄原のなかの地球
―環境問題を考える―

庄原市教育委員会との共催による本講座は，本学の前身のひとつである広島県立大学も含めると18年目を迎える講座です。今年も昨年と同様，前期，後期の２回行う予定です。前期の公開講座は，６月27日から７月25日まで，「地球のなかの庄原，庄原のなかの地球－環境問題を考える－」と題し，別表の内容で行われました。今回の講座では身の回りに存在する昆虫や動物の目，または日常生活に欠かせない水などを通して庄原の環境について学びました。

テーマがともに環境であることから，今回の講座では７月27日の開学記念行事のひとつである『皇帝ペンギン』上映会と連携しました。そのなかで本学の学生を対象に講座を無料開放しました。学生の数は少なかったですが，新たな庄原市民と大学との結びつきができました。５回の講座で延べ247人の市民が受講されました。

後期の本講座は,「庄原市の新たな共生を求めて～身近な他者を理解するために～」のテーマのもと10月下旬より，５回シリーズで実施します。

講義題目等一覧

回	日程	題　　目	講　師
1	6/27	環境問題と私たちの生活	三好康彦
2	7/4	地球温暖化と昆虫	五味正志
3	7/11	異変！ツキノワグマ	元中国新聞写真部長 紺野　昇
4	7/18	森林資源活用による環境保全と地域活性化	宮本　誠
5	7/25	農村の環境づくり（生産と生活）	前川俊清

産学官連携

しょうばら産学官連携推進機構

５月14日に庄原グランドホテルで，赤岡功学長も出席して第６回理事会（平成19年度総会）を開催し，平成19年度事業計画を決定しました。

事業内容は「マッチング事業」,「セミナー事業」,「ソフト事業」に，今年度は，庄原市が実施する「庄原市県立広島大学研究開発助成事業」におけるマッチング事業の推進と，学生による地域活動を紹介する等の「地域連携事業」を新たに計画へ盛り込みました。マッチング事業では自治体や企業，団体等のニーズを地域連携センターに紹介するなどの産学官連携を進める予定です。庄原市助成事業におけるマッチング事業では，助成を受けた教員の研究成果報告会の開催などを予定しています。またセミナー事業では，さとやま環境セミナーや元気な地域づくりセミナーなど各種セミナーを開催予定です。地域連携事業では，教員と学生で設立したNPO法人「環境調査改善研究会」の活動報告会など，学生による地域活動の紹介等を企画中で，それらを通じ地域と学生との連携の円滑化を図ります。ソフト事業としては，当機構の活動報告や情報交換のツールとして紙媒体での機構だより発行に加え，当機構ブログによる産学官連携の情報提供などを通じ，産学官連携のより活発な活動を推進していく予定です。

三次イノベーション会議

５月31日に三次市まちづくりセンターで三次イノベーション会議総会が開かれました。吉岡広小路三次市長，三田正司三次商工会議所会頭，赤岡学長など25名が出席し，事業報告，収支決算，規約改正，事業計画と予算の各議案が審議され，いずれも原案

通り採択されました。本学が公立大学法人となり，ますます密接な関係が形成されています。

国際交流

JICA研修受け入れ

6月5日～7月8日の間，JICA（独立行政法人国際協力機構）の地域別研修・南東欧地域産業振興政策コースが開催されました。セルビア，マケドニア，モンテネグロの研修生7名が主に広島県内研修を行い，本学の野原建一・姜判国・伊東和久教授が講師として参加しました。

本研修の目的は対象国の中央政府と地方自治体の職員が，県と市町がうまく連携している日本の経験について理解を深め，関係機関の連携の仕方を修得し，地域産業振興政策・施策の改善案を作成することにあります。ひろしま国際センターの協力のもと県商工労働部や中小企業大学校広島校，県内の第三セクター等に足を運びました。本学では地域産業に関する講義，帰国後のアクションプランの作成，指導を行い，研修員とディスカッションを行いました。

今後の講座のご案内

●公開講座

現代社会における『子ども』問題とその理解
12月1日(土)9:40～16:00
講師 本学教員4名

●学術講演会

パンダの死体はよみがえる
11月30日(金)14:40～16:10
講師 遠藤　秀紀［京都大学教授］

研究紹介

微生物による環境モニタリング，資源回収

生命環境学部環境科学科　准教授　阪　口　利　文

環境修復の検証や環境の実状を知るためには，現地でのモニタリング技術の開発が不可欠となっています。また，重金属など無機イオンによる環境汚染は分解による浄化ができないことや無機元素の再資源化といった観点から有効な回収技術の開発が望まれています。そこで，私どもの研究室では，様々な自然環境から独自に微生物を見出し，その機能をエコモニタリングや無機アニオン・重金属イオンなどの回収，再資源化技術の開発に利用する研究を行っています。これまでの成果として，海洋生物から分離された発光細菌をアクリルチップに固定化した微生物チップとデジタルカメラやノートパソコンなど安価な市販品を用いた持ち運び可能なBOD計測システムを開発し，現場での迅速な有機汚濁の検出を達成しました（図）。このシステムを用いることで極微量（約5μl）の試料から野外で，30分以内のBOD測定が可能です。現在，国による助成を受け，一枚の発光細菌チップで複数の汚染項目を同時に計測できるようセンサーのマルチ化について研究が進行中です。また，油田から得られた微生物を用いて有害アニオン種である亜テルル酸とカドミウムイオンから半導体であるテルル化カドミウム微粒子の合成にも成功し，将来戦略資源として回収が望まれている元素の資源化と環境浄化についての研究も進展させています。

微生物チップからの発光を市販のデジタルカメラで撮影

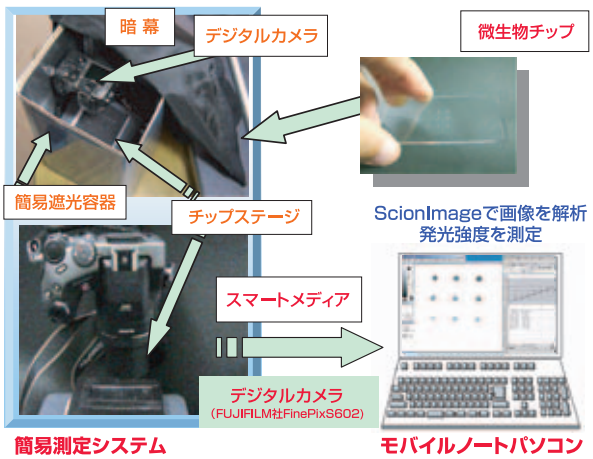


図　発光微生物チップを用いたオンサイト型BOD測定システム

三原キャンパス

MIHARA CAMPUS

子育て支援プロジェクト

保健福祉学部作業療法学科　教授　林　　優　子

保健福祉学部の各学科には子どもを専門とする教員が多く，保健福祉短期大学の開学以来，附属診療所での診療・リハビリテーションや地域での子育て支援を行ってきました。その内容は，子どもの発達支援・親支援から次世代育成にいたるまでの広い範囲にわたっています。現在は，特に少子化対策や発達障害児支援など子育て支援のニーズの高まりがあり，さらに多方面から協力を期待されている状況です。

平成18年度から，各学科が連携し統合的にそれらの専門性や活動を集約して，地域の子育て支援ニーズに広く効率的に対応することを目的として，『子育て支援プロジェクト』が発足しました。まず，就学前，学童期および思春期の３つのワーキンググループに分かれてこれからの課題や活動目標を話し合い，「三原市におけるライフステージごとの子育て支援ニーズと地域における援助資源に関する調査」の実施や学科を超えた情報の交換を行いました。

今年度は，地域連携センターの柱の１つとして位置づけられ，学部全体に広く参加を呼びかけた結果，５学科20名のメンバーが集まり，組織を体系化して活動を行っていくことになりました。「現代の子どものこころとからだの理解」，「支援が必要な子どもたちの気づき」，「地域における子育て家庭への支援体制の構築」などをテーマに，広島県，三原市，青少年育成広島県民会議，青少年育成三原市民会議と連携し，研究事業，総合講習や地域連携事業など地域貢献を計画しています。この新しい試みにより，地域の多くの子どもたちが健やかに成長し力を発揮していくこと，また，大学の専門性を集約して地域と連携することで大学機能がさらに発展することを期待しています。

開学記念リレー映画上映会「裸の島」

開学記念キャンパスリレー映画上映会の先頭を切って７月13日，三原市佐木島を舞台にした新藤兼人監督，乙羽信子・殿山泰司主演，モスクワ映画祭グランプリ受賞作品「裸の島」上映会が開催されました。

赤岡功学長のこの映画への熱い思いとこだわりに満ちた解説の後，三原市の協力で16ミリフィルムによる「裸の島」が上映されました。

瀬戸内海の孤島に住む貧しい夫婦と２人の子どもの厳しくも単調な生活。そこに起こる大小のドラマ，子の死。深い悲しみの後また，いつもの生活に戻る家族。

上映後，赤岡学長と間野博教授，当時ロケに協力した佐木島住民との意見交換をして終わりましたが，参加者に，日頃のあわただしさから離れて改めて「生きる」とは何かを考えるひとときを与えてくれたのではないでしょうか。

地 域 連 携

看護相談・健康情報提供番組「三原市チャンネル」

看護学科では，健康づくりや療養に関する相談の場として，毎週木曜日13時～15時（８-９月休み）に看護相談を開催しています。各々の教員が専門とする相談に応じられるようにし，内容は本学ホームページ及び「広報みはら」に掲載しています。しかし，相談となると行動に移せないことが多々あると思います。そこで，「三原市チャンネル」に出演し，メディアを通じ専門領域から地域の皆様が関心を寄せられている健康情報を発信することを企画しました。９月から放映されていますので，是非ご覧ください。

また，看護相談も引き続き継続していますので，お気軽にご利用ください。

こころと人形劇

健康は社会の財産です。社会の健康があって個人はよりよく育まれます。そのため地域を明るくする場を地域の方と一緒に作ろうと「人形劇」を企画しました。

「人形劇」活動は生命の基本的欲求である楽しみ，安らぎ，心の拠所の場を提供してくれます。地域の方と共に製作した人形を，学生ボランティア（パペットサークル）が操作し，地域の方に見ていただく。この活動を通じて，心の源となる身体，明るさ，元気，やるき，そして生命に対する愛情を自らの地域で育めたらと思っています。

次回は10月13日に糸崎地区で実施します。

キャンパスツアー

三原キャンパスでは，昨年度から，三原地域連携推進協議会（以下，「推進協議会」）の事業として「キャンパスツアー」を実施しています。

主だった施設を巡りながら，教員との交流の場を設けたり，リハビリの実際を体験していただくなど，交流・体験重視のツアーとなっているのが特徴です。さらに，最新の研究内容の紹介も行っています。定員30名で，年２回（７月，11月）実施しており，受験生，小中学生，観光ボランティアガイドなど様々な市民の方々が参加され，毎回好評をいただいています。

開催案内は，推進協議会のホームページに掲載されますので，是非一度ご参加ください。

研究紹介

作業を基盤とした認知症予防の挑戦

保健福祉学部作業療法学科　教授　近　藤　　敏

軽度認知障害のリスクをもった地域の高齢者を対象に，認知症予防教室への参加を呼びかけ，月２回，年10～12回開催しその成果を検討しています。お客様扱いの受け身的なメニューではなく，参加者が能動的に参画し，その過程で自分の能力に気づいてもらうことから始めています。具体的には，目標シートを用いて，参加者にとって価値をもつ作業を明らかにし，これをもとに認知症になりかけた時に，低下することが指摘されている思考力，注意力，記憶力を刺激するためのプログラムを作成します。参加者自ら料理や新聞づくり，創作活動，有酸素運動といった作業を計画し実行し，振り返り，発表することで行動の変容や効力感が高まるという成果が得られています。

国際交流

交換留学生の受け入れ～留学生の紹介

保健福祉学部人間福祉学科３年　李　　玟　熙

私は，韓国のソウル市立大学からの交換留学生として，県立広島大学人間福祉学科で楽しく勉強しています。今年の４月に来て，もう夏休みになるなんて本当に早いと感じられます。

三原キャンパスは韓国の大学に比べて全体規模は小さいですが，保健福祉学部だけのキャンパスなので，保健，医療，福祉に関するいろんな学科が一緒に所属していて，質的には大きく感じられます。カリキュラムが多様で教員数も多く各分野を専門的に勉強するのに非常によい環境だと思います。また，他学科の学生と接することで他職種を理解することもできると思います。特に，ゼミは韓国には無いもので非常に面白かったです。そこでは一方的な講義ではなく，少人数で自分のやりたい分野をより深く勉強でき，先生との距離も縮まるのですごく良い授業方法だと思いました。

今，陶芸と茶道サークルに入っていて，秋にある学園祭もすごく楽しみです。これからもいろんなものに参加して留学生活をもっと楽しんでいきたいと思います。

今後の講座のご案内

●広島保健福祉学会第8回学術大会

『ヒューマン・マシン・システムを考える』

日　　時　平成19年12月8日(土)13:00～17:00
場　　所　本学三原キャンパス1号館1階大講義室
特別講演　「生体信号で動かすロボット」
　　辻　敏夫氏（広島大学大学院工学研究科教授）

●義手を語る会 in MIHARA（2）

『電動義手の発展を願って』

日　　時　平成19年12月7日(金)13:00～17:00
　　8日(土)　9:00～11:30
場　　所　本学三原キャンパス1号館1階大講義室
特別講演　「電動義手を本当に使ってもらうためには?」
実技講座　「電動義手の装着訓練の実際」

●第5回 脳をみるシンポジウム in 三原

『認知症について考える（仮テーマ）』

日　　時　平成20年3月1日(土)
場　　所　三原リージョンプラザ文化ホール

広島キャンパス

HIROSHIMA CAMPUS

産学連携

呉信用金庫と連携協力協定を締結

５月24日，本学は呉信用金庫との間で連携・協力に関する協定を締結しました。それぞれが保有する情報やノウハウ等を用いた，組織的かつ効果的な協力を図ることにより，地域社会の発展に貢献していく方針です。

まず地元商店街の活性化の活動を重点課題として，相談会や経営セミナーを企画します。

呉信用金庫産学連携セミナー開催

連携協力協定に基づく産学連携セミナーを７月18日に呉市で開催しました。地元商店街の活性化について呉地区の商店街振興組合員の方々を対象とするセミナーで，50名の参加がありました。今回は講演時間が各30分と短かったため，もう一度ワークショップ形式のセミナーを開講し，相談会はその後，随時開催する予定です。

新マーケティングの着眼点：マーケティングは消費者に勝てるか？	粟　島　浩　二
会計情報と経営	五百竹　宏　明
食こそ町づくりの要なり	加　藤　秀　夫

広島信用金庫「集落法人と企業との意見交換会」

昨年度連携協力協定を締結し，その事業として開催した企業の方を対象とした産学連携講座『食と農を考える』が好評で，その後もこれに関連した企画が続行中です。７月23日には広島信用金庫主催による，農業経営者の集落法人と企業との連携・協力のあり方についての意見交換会が農業技術センターで開催されました（出席者52名，集落法人18名，企業16名，県農林水産部他18名）。本学の武藤徳男教授もコーディネータとして参加しました。

公開講座

連携講座（シティカレッジ）「泉の話　話の泉」

広島県統計協会の機関誌『統計の泉』に連載した「泉」をテーマとするリレーエッセイを，広島市まちづくり市民交流プラザでの公開講座で紹介しました。古今東西の文学や芸能・音楽・絵画，歴史・地理など，幅広く多彩な内容でした。特別参加の財団法人ひろしま美術館学芸員古谷可由さんにも,「泉と絵画」についてお話しいただきました。

毎回平均63名，延べ250名の方が受講され，「知的好奇心を満足させられた」「心が豊かになったような気がする」といった声が寄せられました。

6 / 9	「泉」という地名	秋　山　伸　隆
	酒と泉	酒　川　　茂
6 /23	和泉式部伝説を追う	西　本　寮　子
	「鷹の泉」という能	樹　下　文　隆
6 /30	泉の妖精水の女神	田　渕　桂　子
	泉と絵画	ひろしま美術館 古　谷　可　由
7 / 7	泉と音楽	小　玉　好　行
	泉の下からこの世をながめる	柳　川　順　子

「わくわく理科体験教室」

８月22日と24日の２日間，延べ34名の小中学生と15名の保護者を対象とした公開講座を行いました。子どもたちは生き生きと実験を楽しみました。

保護者の方からは，「毎年，夏休みの自由研究で苦戦していたので，小学校最後の年にきちんとした実験が体験でき，とても勉強になりました」という声も寄せられました。

はく検電器を作って，電気の実験をしてみよう	加藤　一生
手作り保冷剤でシャーベットをつくろう	森脇　弘子
DNAってなに？－DNAをとってみよう	増山　悦子
干潟の生き物たちの掃除パワーを調べよう	中村　健一

今後の講座のご案内

10/30，11/13，27，12/11（火） 10:40～12:10	いま，あらためて『源氏物語』を読む
11/6, 13, 27, 12/4, 11, 18（火） 18:00～20:00	戦国の文書を読み解く（広島市まちづくり市民交流プラザ）
12/1，8，15（土） 10:00～12:00	国際貢献のための人材育成講座2007

研　究　紹　介

ウルトラマンにはなれませんが…

人間文化学部国際文化学科　准教授　富　田　和　広

「地球防衛隊のメンバーを教育する研究」地球防衛隊は宇宙からの侵略者と戦うわけではありません。地球規模の環境破壊やエネルギー・水などの資源の枯渇などの諸問題から地球を守る組織です。隊員たちは，地球規模で考えると同時に地域や個人の行動指針まで作成できる人材でなければなりません。そんな人材をどうやって育てればいいのか…。

地球防衛隊というのはフィクションですが，このような人材育成の取り組みは，すでに地球規模で始まっています。国連は，2005年からの10年間を「ESD（持続可能な開発のための教育）の10年」として取り組んでいくことを決議しました。私を含めた数名の国際文化学科の教員も，一昨年よりESDの観点を取り入れた人材育成プログラムの研究に取り組んでいます。

現在は，貿易ゲームや模擬国連といったアクティビティを各教員の専門分野の知識や外国での経験をもとにアレンジし，個性に合わせて主体的に参加でき，かつ効果が高いプログラムを作成し，本学の授業に実験的に導入しています。模擬国連は，参加者がある国の大使となって実際の議題について議論するもので，高度な問題解決能力とコミュニケーション能力を育てることが可能です。研究成果の一端は広島県主催「国際貢献のための人材育成講座2007」で活かされる予定です。

３分間で問題を解決するようなヒーロー・ヒロインがゴールではありません。地道なリサーチ，粘り強い交渉を続け，誰も犠牲にならず，そして実現可能なプランをたて，合意形成を目指す…，そんな人材を育成するための研究なのです。

模擬国連サマーセッション2006

国際合弁企業のマネジメントと知識創造

経営情報学部経営学科　准教授　平　野　　実

近年，企業間競争がグローバル化するにともない，わが国でも多くの企業が，存続と成長の有効な手段として海外企業との合弁事業を展開してきています。企業は合弁事業を有効に展開することにより，市場参入や技術革新の速度を早め，開発リスクを削減し，経営資源を補完することができます。

しかし合弁事業は，資本的に独立した２社以上の企業の提携であり，その関係は不安定で，成功裡に進められている事例は決して多くありません。合弁事業の展開は，両親企業と合弁企業が事業展開の中で培った独自の優位性，すなわち知識を獲得・活用・創造するプロセスとして捉えることができると考えています。合弁事業では，両親企業の既存の知識を活用するだけでなく，合弁企業自体が新たな知識を創造する能力を構築することが極めて重要となります。

現在進めている研究は，全世界に展開する国際合弁企業の知識創造プロセスの特徴を実証研究によって解明することを目的としています。具体的には，(1) 国際合弁企業の知識創造プロセスを規定している環境状況とコンテクストの特定化，(2) 知識創造プロセスと成果の相互関係の解明，(3) 合弁企業の組織プロセスに関する新たな理論モデルの構築，および (4) 国際合弁企業のマネジメントに関する実践的な提言を試みることです。

「子どもと楽しむ4つの世界」ご案内

8月27日（月）（終了しました）
ひとり語り「伸ちゃんのさんりんしゃ」

10月20日（土） 14:00～16:00
音楽劇「おばあちゃんのひざまくら」

12月8日（土） 10:00～12:00
音楽リズム
「しなやかな心とからだを育む身体運動文化（Ⅰ）」

12月15日（土） 10:00～12:00
まとあてゲーム
「しなやかな心とからだを育む身体運動文化（Ⅱ）」

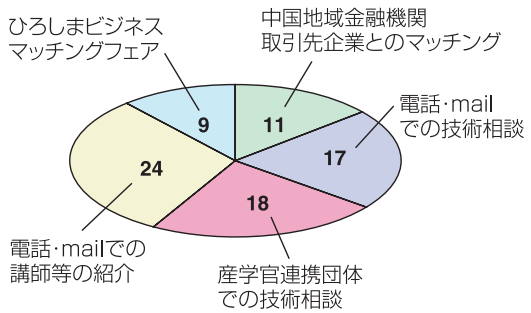
今後の講座についてはホームページをご覧ください。（http://www.pu-hiroshima.ac.jp/investigation/ex_lecture/19/index19.html）

県立広島大学地域連携センター新センター長のご紹介

中谷　隆 地域連携センター長

大学を売り込む（知名度を上げる）にはどうすればよいのか。各大学で現在，いろいろと知恵をしぼっているようです。中には広告代理店（業者）と相談するケースもあると聞きます。その業者の提案の中で必須と言われているのが，産学官連携の実績を訴えることだそうです。「大学の地域貢献ランキング」調査によれば，専門系大学，いわゆる単科大学の健闘が目立ちます。本学も含めた総合大学のメリット，そしてそれを生かした地域連携策とは，なお一層の創発的知恵が必要とされております。地域連携センターがその作業機関になればと思います。教職員からの案（知恵）の持込みを大いに期待しているところです。

地域連携センター相談受付件数（H18）



三好　康彦 庄原地域連携センター長

この４月から野原建一センター長の後任として庄原地域連携センター長に就任しました。現在，地域貢献は大学が果たす重要な役割となっています。庄原地域連携センターはその役割を果たす窓口ですが，前センター長がこれまで築いてきたことを基礎に本学にある知的財産を最大限に庄原地域に活用したいと思っています。

大塚　彰 三原地域連携センター長

今年の春から，三原地域連携センター長に就任し，忙しくさせて頂いています。三原は三原市や商工会議所との協働した催しも多く，前センター長が本当に地域との連携を目指していたことが理解できました。キャンパスの特色でもある，保健・福祉・医療の分野に関するご協力はできますので，声をかけて頂けると幸いです。

加藤　秀夫 広島地域連携センター長

広島県の医療費はビッグ３で，この大きな負担が地域の活性化を抑制しています。来年度から40歳以上を対象に‘メタボ健診’が義務づけられます。広島地域連携センターは，このような現状を踏まえて，健康科学，地域文化，経営情報が原動力となり，より健全な市町づくりを推進します。

編集後記

センター報第５号をお届けします。今号では，県立広島大学地域連携センターの事業内容が詳細に報告されています。各キャンパスとも産学連携事業として協力協定に基づくセミナーや意見交換会，また，市民を対象とした公開講座やシティカレッジの様子が紹介されています。

平成17年４月に地域連携センターが誕生し，その役割を果たせるよう積極的に事業を展開しています。さらに地域の皆様のご期待に応えられるよう運営して参りたいと思います。今後ともご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。（T）

編集発行

県立広島大学地域連携センター
〒734-8558 広島県広島市南区宇品東一丁目１番71号
電話(082)251-9534／E-mail：renkei@pu-hiroshima.ac.jp

各キャンパス問合せ先

県立広島大学庄原地域連携センター
〒727-0023 広島県庄原市七塚町562番地
電話(0824)74-1704／E-mail：gakujutu@pu-hiroshima.ac.jp

県立広島大学三原地域連携センター［本号編集担当］
〒723-0053 広島県三原市学園町１番地の１
電話(0848)60-1200／E-mail：mrenkei@pu-hiroshima.ac.jp